

令和5年8月1日

予察情報 5-6

# 病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 8月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期			
水稲	いもち病（穂いもち）	少ない	並	野菜	白ねぎ	さび病	やや多い	—		
	紋枯病	並	—			黒斑病・葉枯病	やや多い	—		
	ごま葉枯病	やや少ない	—			ネギアザミウマ	並	—		
	斑点米カメムシ類					ネギハモグリバエ	少ない	—		
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—			シロイチモジヨトウ	やや多い	—		
	アカスジカスミカメ	やや多い	—		野菜全般	アブラムシ類	少ない	—		
	トゲシラホシカメムシ	やや多い	—			ネキリムシ類	やや多い	—		
	クモヘリカメムシ	やや多い	—		果樹	果樹全般	果樹のカメムシ類	少ない	—	
	ニカメイガ（第2世代）	やや多い （局部多い）	—				りんご	褐斑病	やや多い	—
	ツマグロヨコバイ	やや多い	—					斑点落葉病	少ない	並
	ヒメトビウンカ	やや少ない	—	ハダニ類				並	—	
	セジロウンカ	少ない	—	カイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）				並	—	
	トビイロウンカ	並	並	日本なし		黒星病		やや多い	—	
	コブノメイガ	並	並			ナシヒメシンクイ	並	—		
大豆	葉焼病	やや多い	—			カイガラムシ類（ナシマルカイガラムシ）	並	—		
	紫斑病	並	並			ハダニ類	多い	—		
	ウコンノメイガ	やや多い	—			ぶどう	べと病	並	—	
	フタスジヒメハムシ	少ない	—	黒とう病	やや多い		—			
	アブラムシ類	やや少ない	—	かき（三社）	フジコナカイガラムシ	並	—			
	ハスモンヨトウ	やや多い	—		もも	モモハモグリガ	やや少ない	—		
	大豆カメムシ類	やや多い	—	ナシヒメシンクイ		並	—			
	ハダニ類	並	—	花き 球根	きく	きくの黒斑病・褐斑病	少ない	—		
花き 球根	花き全般	アブラムシ類	少ない			—				
		タバコガ類	少ない		—					
		ネキリムシ類	やや多い		—					

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974  
 参照URL : <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

# I 水 稲

## 1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の葉いもち発病株率は0%で、平年（0.0%）並に低かった。
- ・ 8月の気象は平年と同様に晴れの日が多く、気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 32～33 ページ参照

## 2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並

- (2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の発病株率は1.8%で、平年（1.6%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 29～30ページ参照

## 3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の発病株率は0.0%で、平年（0.3%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体活力の維持に努める。
- ・ 防除指針 34 ページ参照

## 4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量：並

- (2) 予報の根拠

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は2.3頭で平年（3.3頭）よりやや少なく、確認地点率も33%で平年（48%）よりやや低かったが、8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・ コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。

- ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 42、44ページ参照

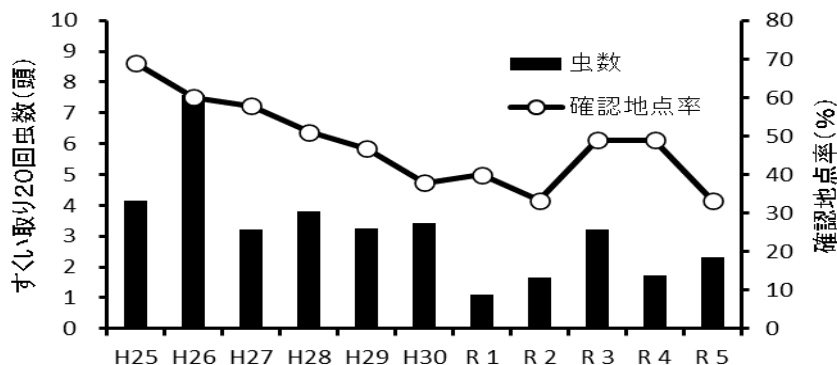


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 5 斑点米カメムシ類 (アカスジカスミカメ)

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.3頭で、平年(1.8頭)より多く、確認地点率は24%で平年(23%)並であった。
- ・8月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 42、44ページ参照

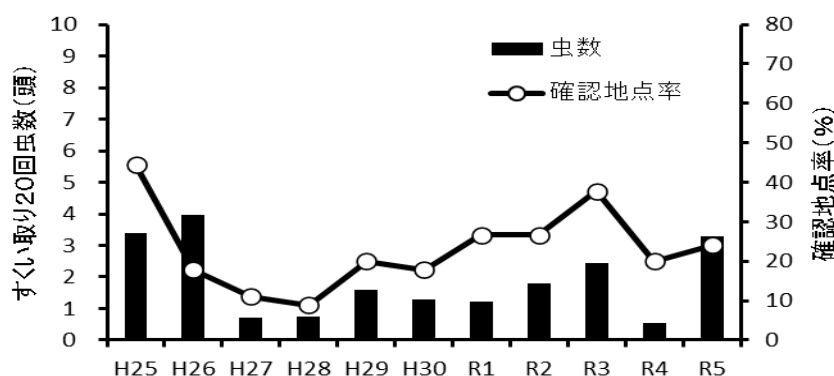


図2 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 6 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.24頭で、平年(0.16頭)より多く、確認地点率も16%で平年(11%)よりやや高かった。

- ・ 8月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
  - ・ 防除指針 43, 44ページ参照

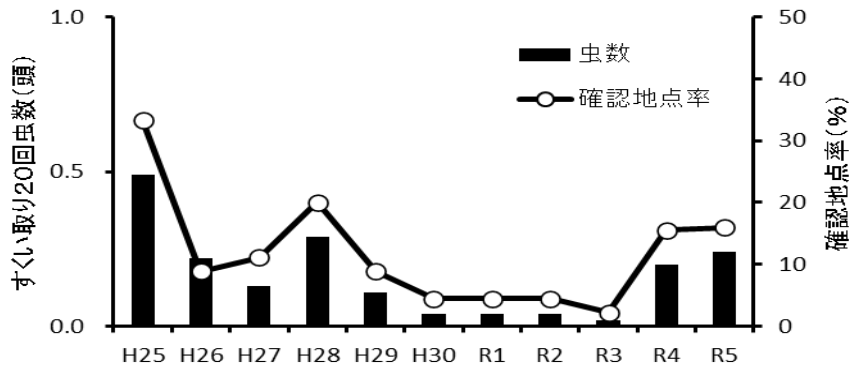


図3 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 7 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.16頭で、平年(0.03頭)より多く、確認地点率も2.2%で平年(1.8%)よりやや高かった。
- ・ 8月の気温は高いと予想されている。

### (3) 防除対策

- ・ クモヘリカメムシは成虫及び水田内で孵化した幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割籾がなくても被害が生じるので、発生が多い地域では品種にかかわらず穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。
- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類がみられる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 防除指針 42~44ページ参照

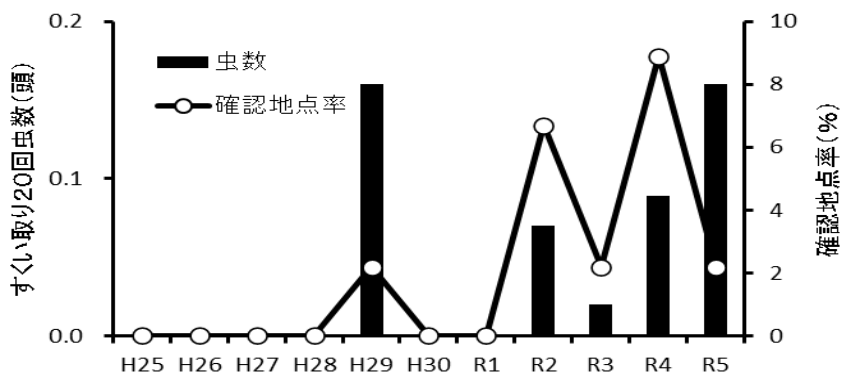


図4 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 8 ニカメイガ（第2世代）

(1) 予報内容 発生量：やや多い（局部多い）

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・ 7月20日調査の被害株率は1.5%で、平年（1.0%）より高かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 37～38 ページ参照

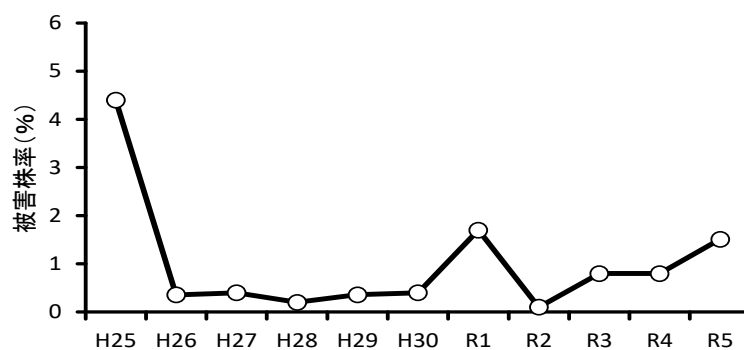


図5 ニカメイチュウの被害株率の状況年次推移(7月20日調査)

## 9 ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・ 7月20日調査のすくい取り虫数は3.4頭で、平年（1.1頭）より多かった。

・ 8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

・ 防除指針 39ページ参照

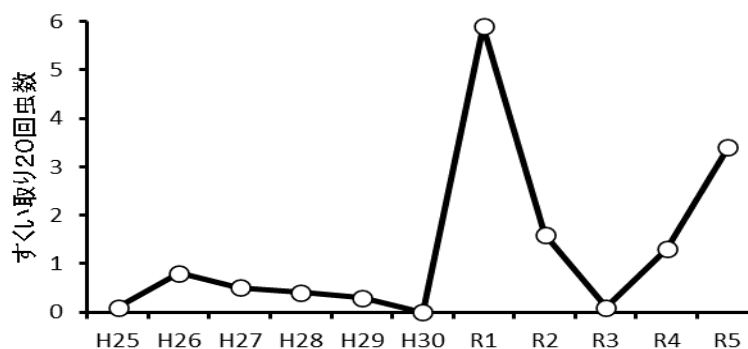


図6 ツマグロヨコバイの本田すくい取り状況年次推移(7月20日調査)

## 10 ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は1.9頭で、平年（2.5頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 40～41ページ参照

## 11 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は0.1頭で、平年（1.0頭）より少なかった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 40～41ページ参照

## 12 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠  
・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月16日）。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 40～41ページ参照

## 13 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠  
・ 現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月1日）。

- (3) 防除対策  
・ 晩植田で多発することが多いので注意する。  
・ 防除指針 41ページ参照

## II 大豆

### 1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・ 7月25日の調査の発病度は0.3で、平年（0.2）より高かった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 55ページ参照

### 2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠  
・ 8月の降水量はほぼ平年並みと予想されている。

- (3) 防除対策
- ・ 2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。
  - ・ 防除指針 54 ページ参照

### 3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・ 7月25日調査の被害株率は20.0%で、平年（15.5%）よりやや高かった。
- (3) 防除対策
- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
  - ・ 幼虫による葉巻の発生量を確認し、7月6半旬における1本当たりの平均葉巻数が6個以上の場合は、8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず実施する。
  - ・ 防除指針 55 ページ参照

### 4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・ 7月25日調査の払い落とし虫数（1条1.8m間）は0頭で、平年（0.02頭）より少なかった。
  - ・ 種子処理剤の普及が進んでいる。
- (3) 防除対策
- ・ 払落調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
  - ・ 防除指針 57 ページ参照

### 5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・ 7月25日調査の寄生株率は0%で、平年（0.5%）より少なかった。
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 56 ページ参照

### 6 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・ フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数は101.1頭で、平年（81.7頭）よりやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 57 ページ参照

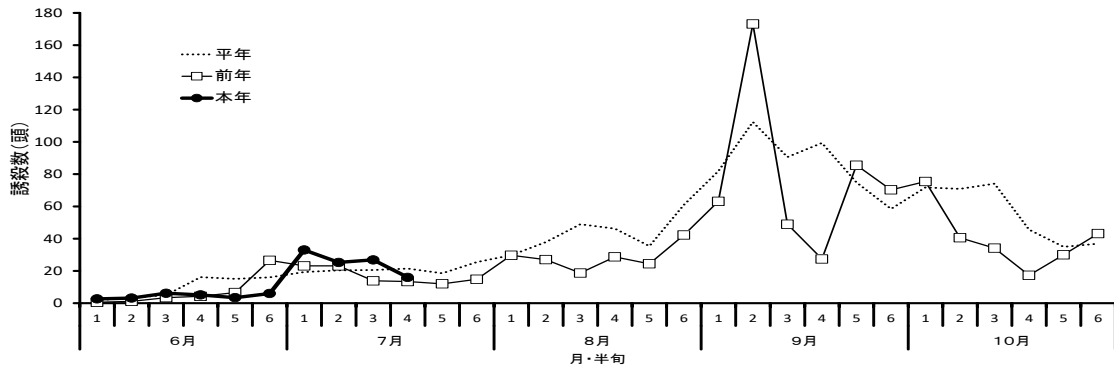


図7 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

## 7 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 7月25日調査の払い落とし虫数（1条1.8m間）は0.03頭で、平年（0.01頭）より多かった。

(3) 防除対策

- ・ 成虫侵入期の8月中旬頃（莢伸長期）と成虫侵入盛期から2週間後の8月下旬（子実肥大期）の防除を徹底する。
- ・ 多発が懸念されるほ場では発生状況に応じて追加防除を行う。
- ・ 防除指針 56 ページ参照

## 8 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 7月25日調査の寄生株率は0.4%で、平年（1.7%）より低かったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・ 防除指針 55 ページ参照

## Ⅲ 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 7月25日調査の発病株率は27.2%で、平年（16.7%）より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 98 ページ参照



## 2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・ 7月25日調査の発病株率は20.8%で、平年(10.8%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 無理な土寄せを避け、他の病虫害防除を徹底するなど、葉先枯れの防止に努める。
- ・ 防除指針 98～99 ページ参照

## 3 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・ 7月25日調査の被害株率は39.2%で、平年(48.9%)よりやや低かったが、8月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

・ 防除指針 100 ページ参照

## 4 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月25日調査の被害株率は1.6%で、平年(15.6%)より低かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 99～100 ページ参照

## 5 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・ フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数は75.4頭で、平年(44.6頭)より多かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 100～101 ページ参照

## 6 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月1半旬～4半旬の黄色水盤への誘殺数は70.0頭で平年(199.5頭)より少なかった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 68～134 ページのアブラムシ類の項参照

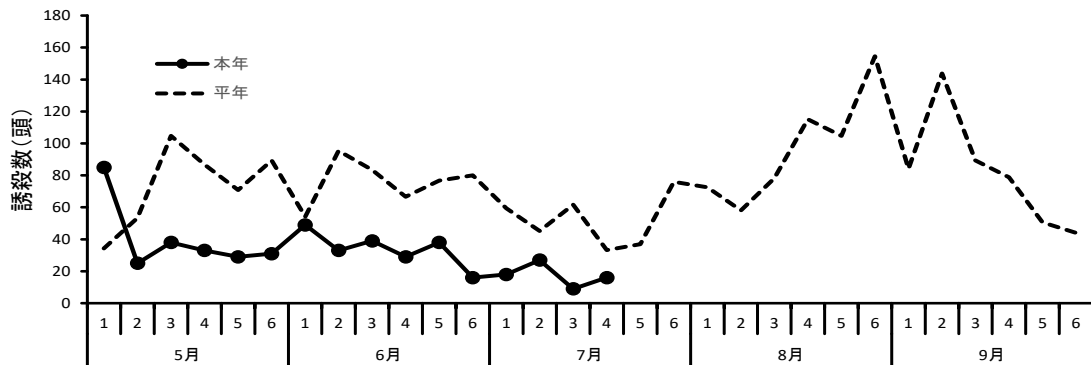


図8 アブラムシ類の黄色水盤トラップ誘殺数推移

## 7 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数はタマナヤガが29.3頭で平年(23.0頭)よりやや多く、カブラヤガも80.0頭で、平年(66.2頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 70～130ページのネキリムシ類の項参照

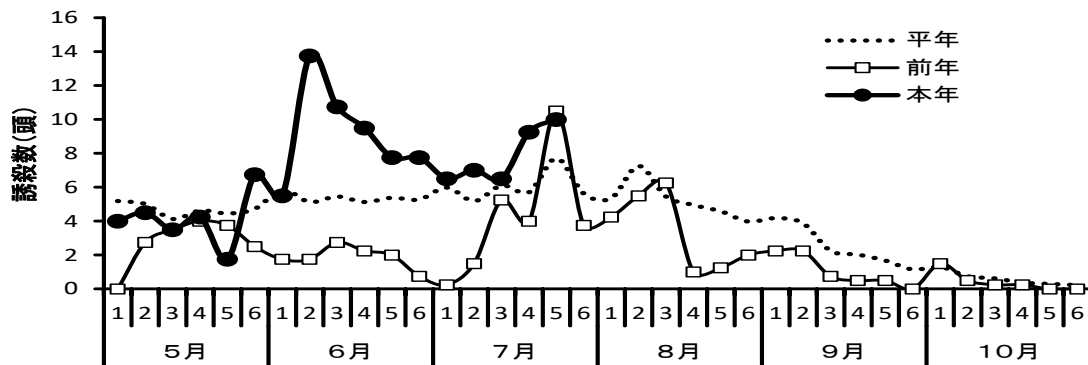


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

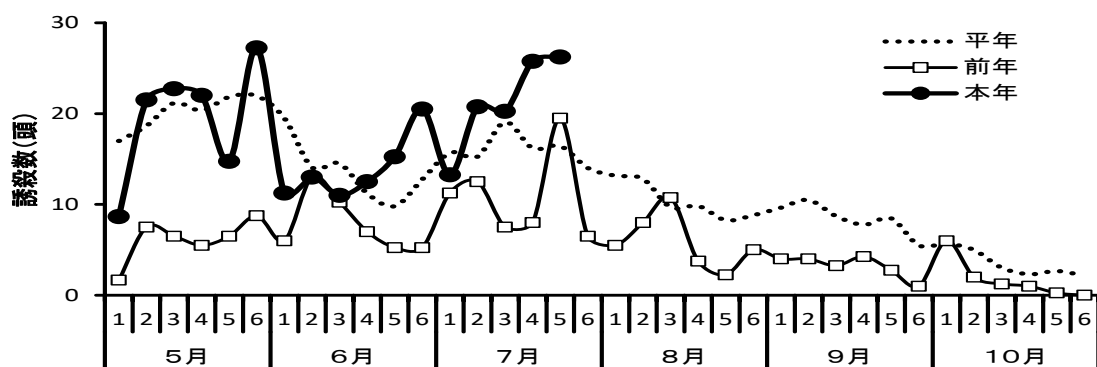


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

## IV 果樹

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は2.3頭で、平年（13.3頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・園地への飛来状況に注意し、飛来がみられた場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド系殺虫剤及び有機リン系殺虫剤等）を散布する。
- ・発生が多い場合は、効果が高く、残効性に優れる合成ピレスロイド剤（アグロスリン水和剤等）を散布する。ただし、本剤は天敵等に対する影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：りんご 139、143、146～147 ページ、日本なし 150、154、157 ページ、かき 169 ページ、もも 172、174 ページ参照

### 2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・平年に比べ早く発病がみられ、発生量も平年と比べやや多かった。

(3) 防除対策

- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を高める。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・発生の多い園地や台風等風雨後には、トップジンM水和剤（1,500倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：139～141、145～146ページ参照

### 3 りんごの斑点落葉病

(1) 予報内容 発生量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・高温多雨で発生が急増しやすいので、薬剤の散布間隔が10日以上空きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。

- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：139～141、145～146ページ参照

#### 4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量はやや少なかった。
  - ・8月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・主枝や垂主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤の到達性を向上させる。
  - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
  - ・高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生がみられた場合は速やかに防除する。
  - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・防除指針：142、144～145、147 ページ参照

#### 5 りんごのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、発生の多い園地では遅れないように防除を行う。
  - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・防除指針：143～144、146～147 ページ参照

#### 6 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・現在までの発生量はやや多かった。
    - ・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・発生が多い場合は、収穫前にオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで）を散布する。
  - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
  - ・防除指針：150～153、156 ページ参照

## 7 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は6.0頭で、平年(3.2頭)並であった。
- (3) 防除対策
  - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・発生が多い園地では、アグロスリン水和剤(2,000倍、収穫前日まで)を散布する。
  - ・防除指針：150、153～154、157ページ参照

## 8 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・被害果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
  - ・第2世代歩行幼虫発生盛期は8月初旬と予想されるので、発生が多い園地では遅れないように防除を行う。
  - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
  - ・防除指針：153～154、157～158 ページ参照

## 9 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・現在までの発生量はやや多かった。
    - ・8月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
  - ・高温、乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生がみられた場合は速やかに防除する。
  - ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
  - ・防除指針：155、157～158 ページ参照

## 10 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・現在までの発生量は平年並であった。
  - ・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。

- ・発生がみられる園地では、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なしを散布する）。ただし、夏場高温時にICボルドー48Q及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
- ・防除指針：160～163ページ参照

## 11 ぶどうの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生がみられる園地では、銅水和剤（ICボルドー66D）又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。ただし、夏場高温時にICボルドー66D及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、葉害が発生するおそれがあるので注意する。
- ・防除指針：160～163ページ参照

## 12 かき（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は59.0頭で、平年（79.1頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：166、168～169ページ参照

## 13 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は22.5頭で、平年（44.4頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・収穫終了後にサムコルフロアブル10（5,000倍）を散布する。
- ・防除指針：171～174ページ参照

## 14 もものナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は11.0頭で、平年（9.7頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・収穫期間中に発生（新梢の芯折れ）がみられる園地では、ディアナWDG（5,000～10,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・防除指針：171～174ページ参照

## V 花き・球根

### 1 きくの黒斑病・褐斑病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月25日調査の被害株率は1.3%で、平年（4.2%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 191ページ参照

### 2 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月1半旬～4半旬の黄色水盤への誘殺数は70.0頭で平年（199.5頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 188～212ページのアブラムシ類の項参照

### 3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが8.7頭で平年（20.6頭）より少なく、オオタバコガも3.7頭で平年（23.8頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 196～212ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

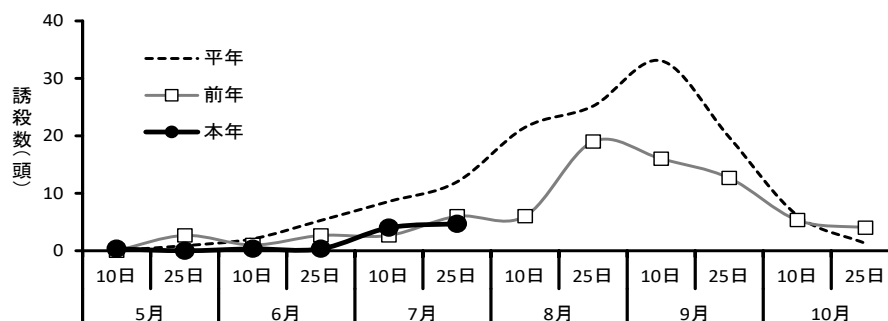


図11 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

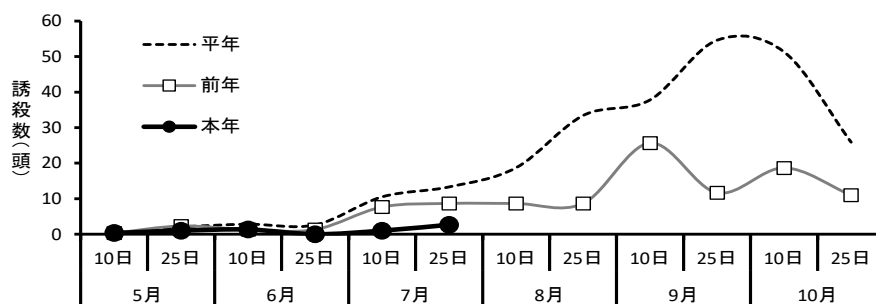


図12 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

#### 4 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

##### 【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～4半旬の誘殺数はタマナヤガが29.3頭で平年(23.0頭)よりやや多く、カブラヤガも80.0頭で、平年(66.2頭)より多かった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植の1週間前までに刈り取る。
- ・定期的には場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 196、209ページのネキリムシ類の項参照

#### ○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

#### ○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組みが必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。



北陸地方 3か月予報  
(予報期間 8月から10月)

7月25日  
新潟地方気象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
気温は、高い確率50%です。

項目	地域	期間	確率 (%)		
			低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	北陸地方	08月~10月	20	30	50
		08月	20	30	50
		09月	20	40	40
		10月	20	30	50
降水量	北陸地方	08月~10月	20	40	40
		08月	30	30	40
		09月	30	30	40
		10月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)